

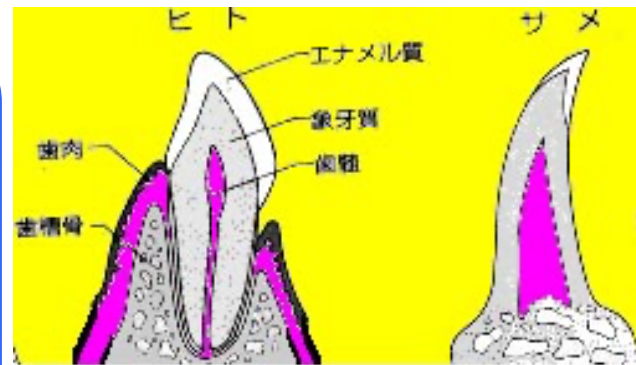


サメの歯の仕組み

サメの歯は生え変わる性質があり、一つの歯が抜けると次の歯がすぐ前に出てくる、ベルトコンベア式になっています。この歯の生え変わりは2～3日ごとに起こり、一生のうちでは2万本もの歯が生え変わります。

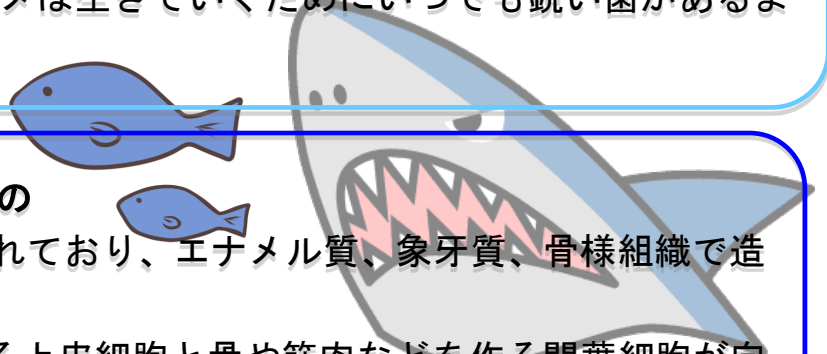
人間の歯とのちがい

人間の歯は、顎の骨の一部である歯槽骨と呼ばれる骨に埋もれています。また、歯の根の周りにも膜（歯根膜）で覆われているため、ちょっとやさっとでは抜けない仕組みになっています。しかし、サメの歯には歯槽骨や歯根膜がないため抜けやすい性質を持っています。



なぜこのようにサメの歯は抜けやすいようになっているのか

サメは獲物に噛みついて食料を確保して生きていくので、鋭い切れ味の良い歯がないと海では生きていけません。噛みついたりしていくうちに鋭い歯は欠けたり、切れ味が悪くなってしまいます。なので、サメは生きていくためにいつでも鋭い歯があるように何度も生え変わるのです。



サメの歯は鱗（うろこ）が進化したもの

サメの鱗は楯鱗（じゅんりん）と呼ばれており、エナメル質、象牙質、骨様組織で造られています。

この構造は歯と全く同じで、表皮を作る上皮細胞と骨や筋肉などを作る間葉細胞が向かい合って、それらの間にエナメル質と象牙質が造られているのです。



人間も重度の歯周病になると歯がグラついてきて、歯槽骨や歯根膜が破壊され、歯が抜け落ちます。サメとは違い『一生持つ歯』なので、しっかりと歯周病予防をしてポロポロ抜けないようにしましょう。

